ツワブキ（生薬名：橐吾（とうご））キク科/葉の液汁は腫物・湿疹・切傷に作用。

写真提供 きくすり.com

道修町インフォメーション
どしょうまち
道修町
第56号 2011年冬号
発 行／道修町資料保存会 TEL 06 (6231) 6958
〒541-0045 大阪市中央区道修町2丁目1番8号(少彦名神社内)
http://www.kusuri-doshomachi.gr.jp

くすりの道修町資料館だより

家庭薬奮闘記

■テーマ展示

昔から「家伝の妙薬」という言葉があります。子供のころ、お腹の具合が悪い時は、母親が置き薬屋の箱の中から苦い薬を取り出し「すぐに治るから」と言って、飲ませてくれたくすりのことを思い出します。

今回は全国家庭薬協議会で編纂された『家庭薬ロングセラーの秘密』薬事日報社をひもどきながら、伝統に培われて育ってきたいわゆる「家伝の妙薬」といわれる「家庭薬」について展示致しました。

「家庭薬」とは、薬局や薬舗あるいは配置薬のなかから、必要としている人が直接購入できる一般用医薬品で、効果も穏やかで副作用も少なく長年の伝統を持つ医薬品を指しています。2009年施行の改正薬事法では、一般用医薬品の販売規制については第一類、第二類、第三類の三つに分類されています。その中の第三類医薬品は通信販売も可能ということになっております。

『家庭薬ロングセラーの秘密』より

このようにセルフメディケーションの時代に家庭薬が見直され、使用されることが可能となるまでには、江戸時代から明治時代への転換期での売薬業者の苦難の歴史があったのです。明治3年（1870）明治政府による「売薬取締規則」に続き、明治9年「製薬免許手続」により新しい科学のもとでの再編成や優良国産売薬の奨励策が打ち出されたものの、一方では売薬営業税（薬剤一処方品に付き一カ年2円、当時米一俵分の価格に相当）のほか営業鑑札や売薬印紙など大変高額で、家庭薬業者の経営を圧迫しました。明治23年のわが国最初の大恐慌に直面して多くの売薬業者が倒産あるいは転業してしまいました。

『家庭薬ロングセラーの秘密』より

現在、皆様に親しまれている家庭薬は、この時期を優れた独創性と経営手腕により切り抜けた家庭薬業者の「家伝の妙薬」に対するこだわりと、それを取り巻く関係者の強固な団結力のたまものといえます。

参考文献：「家庭薬ロングセラーの秘密」家庭薬研究会編纂　薬事日報社
「田代家庭薬発達史」久保山千里著　佐賀県家庭薬発達史刊行会
「薬事法の基礎　第一版」薬事日報社